



かながわ湘南西

障福ナビだより

令和 4 年 9 月 30 日 第 121 号

社会福祉法人 常成福祉会 丹沢自律生活センター総合相談室 湘南西部圏域地域生活ナビゲーションセンター
〒259-1302 神奈川県秦野市菩提 1711-2 ☎ 0463-71-5872 Fax 0463-75-3377 E-mail:soudan@jousei.or.jp

伊勢原市障がい者とくらしを考える協議会相談支援部会 障がい者の意思決定支援勉強会

～相談支援専門員が今取り組みたいこと～ 開催



神奈川県では「意思決定支援ガイドライン研修」が現在開催されていますが、来年度からは意思決定支援の全県展開が見込まれています。その中であって、普段の業務で“意思決定支援”が話題に挙がるが増えた実感されている方は多いのではないのでしょうか。伊勢原市障がい者とくらしを考える協議会相談支援部会では、昨今の意思決定支援にまつわる動きと市内の相談支援専門員の方々の希望を受けて勉強会の開催を決定し、令和 4 年 9 月 14 日（水）に当センター

と Zoom で合同開催しました。前半の講義では、神奈川県ホームページに掲載された研修資料『ともに生きる社会を支える意思決定支援』（神奈川県福祉子どもみら局共生推進本部室）をベースに、意思決定支援の定義、プロセス、意思決定支援の 3 原則といった基本的な考え方等を確認し、本人中心支援を軸に据えた相談支援専門員としての支援の在り様やこれから取り組めることを考える機会としました。そして、まずは今関わっている一人の方の支援から始めることの必要性を共有しています。後半のグループワークでは、「本人中心支援を行う上で、難しさや限界を感じる事」をテーマに参加者同士で意見交換を行いました。“意思決定支援の基盤となる本人中心支援を本当に自分で行えていたのか”について真摯に振り返った方は多く、慌ただしく日々の業務が流れていく中で、立ち止まって自己点検する機会を作ることができました。グループ毎の発表からは、

- 「間違える権利・愚行権の保障」は知っていても、ご本人の選択が危うく見える時、支援者としてどのように支援することが正しいのか、支援者間で意見が割れる
- 重度障害のある方の意思決定支援を行う時、ご家族の気持ちを大切にしながら、どうやってご本人の意思決定を支援できるのか、難しさを感じている

という点が共通していることがわかりました。勉強会終了後の振り返りでは、現場の相談支援専門員の方々の共通の困りに焦点を当てて、解決に向けた考え方やその実践を学ぶことができれば、意思決定支援の取り組みを更に推進する原動力になり得ることを、相談支援部会長と事務局の方と共有しました。今後も様々な学びの機会を捉えつつ、我々自らが試行錯誤しながら実践を積み重ね、その結果を共有していくことが求められています。

相談支援従事者初任者研修とインターバル実習



湘南西部圏域の各市町から参加している第1コース8G(上)、第3コース10G(下)の受講生の皆さん。記念写真も密を回避。

本紙第120号(令和4年7月29日発行)の1面記事『第1回圏域相談支援ネットワーク会議』でお伝えした通り、湘南西部圏域相談支援ネットワークでは、新たに相談支援専門員になる方の地域での受入れ体制を整え、地域の核となる相談支援機関との顔の見える関係を作ることを目的に、相談支援従事者初任者研修・現任研修の受講生を対象としたインターバル実習の相談先リスト(市町の基幹相談支援センター、委託相談支援事業所、行政の担当者名・連絡先を掲載)を作成しました。

初任者研修の演習は、7月末の第1コースを皮切りにスタートし、第3コースの10月6日をもって全てのコースが終了する予定で、その後新たに現任研修がスタートします。湘南西部圏域から参加した全ての受講生には、前述の相談先リストを会場で配布しました。受講生は2回あるインターバル期間に個々の課題に取り組み、それを持って地域の相談支援機関に助言を求めます。

インターバル実習を終えた受講生からは、

- 基幹の職員さんが忙しいことは知っているのですが、時間をとっていただくのが申し訳ない気がしていた。なかなかタイミングが合わず、何度かコンタクトを試みてご相談してみると、自分が支援の組み立てで悩んでいるところをとても親身に聴いてくださり、助言だけだった。
- 地域の頼れる人に繋がることができて良かった。まだ支援に不安な方がいるので、研修が終わっても、ご相談できると思うとホッとします。
- 「これからこの地域で一緒にやっていきましょう」といわれて嬉しかった。



などの感想をいただきました。

インターバル実習で助言した基幹相談支援センター、委託相談支援事業所からは、

- ◇ 新しい人間関係を作ることができ、共通の困り感等の新たな気付きがあるなど、大変勉強になった。今後の相談支援に関する連携を確認する場となり、ありがたかった。
- ◇ 人それぞれの視点の違いや人に伝えることの大切さを再確認し、原点に帰ることができた。
- ◇ インターバル期間が短く、短期間のうちに面談希望が重なり日程調整が難しかった。

などの意見が寄せられました。全体での振り返りはこれからですが、様々な方の努力により、大きな成果があったことが理解できます。

初任者研修ではアセスメントに重点が置かれおり、講義・演習・実習が三位一体となって学習効果を高めています。事例のアセスメントを深める演習が終わった後の休憩時間に「あ〜、面白かった!」と思わず声をあげた受講生の方がいました。この“面白い”という感覚がこの仕事の持つ魅力の一つであり、我々が忘れてはいけないことだと感じます。

【あとがき】今号では、紙面の都合で記事として取り上げられませんでしたでしたが、平塚市では、医療的ケア児の「ケア付き通学支援」と、同様の目的の違う施策である「医療的ケア児通学支援事業」のそれぞれが県内2例目として9月から始まりました。ここに至るまでに、行政と支援に携わる民間事業所が相当な努力を積み重ねてこられたと伺いました。正にご尽力の賜物です。